

## 付 國際連盟一般軍縮會議\*

45 昭和9年2月16日 在仏国佐藤(尚武)大使より  
広田外務大臣宛(電報)

### ドイツ脱退後的主要関係國間外交交渉経過や主

#### 要国の態度に鑑みた今後の會議展望について

パリ 2月16日前着

本省 2月17日後発

#### 第九一號

客年十一月軍縮幹部會ノ決議ニ基ク主要關係國外交交渉ノ經過及主要國ノ態度ハ二月一日英覺書ヲ始メトシ引續キ伊獨佛ノ覺書發表セラレタル爲稍明瞭トナリタルカ右覺書等ニ依リ概觀スルニ今日迄ノ外交交渉ハ軍縮問題ノ進展ニ貢獻スル所極メテ少ク各國依然トシテ其ノ立場ヲ維持シ居ルモノト見ルヘキカ如シ

獨ハ監督制度ヲ主義上受諾シ佛ハ獨トノ直接交渉ヲ拒否セス又試驗期間ニ關スル主張ヲ多少緩和スル外本土防衛軍ノ佛獨「パリティ」ヲ認ムル等兩國<sup>交渉?</sup>自ラノ誠意ヲ示シタル外觀ヲ與ヘタル點ナキニアラサルモ獨ノ兵員三十萬及權利平

方獨ノ軍備ノ部分的承認(ハ順ノ戰車一五五「ミリ」ノ移動砲、高射砲ニ付テハ獨ノ要求ヲ認ムルモ軍用機ニ付テハ二年後ノ問題トシ兵員ニ付テハ獨要求ノ三十萬ト英條約案ノ二十萬トノ間に於テ決定セムコトヲ求ム)ニ併セテ他方佛等ノ段階的軍縮(戰車五年移動砲七年軍用機ニ付テハ存續ノ場合十年)ヲ計畫シ即チ再軍備ト實質的軍縮ノ併用ニ依ラムトスルニ對シ伊ハ條約期間ヲ比較的短期(五、六年)トシ獨ノ軍備ノ完全ナル承認ト佛等ノ軍備休止ヲ骨子トセントス

英伊兩案ニ對シ佛國ノ態度ヲ考察スルニ從來安全保障トシ

テ主張シ來リタル相互援助案國際空軍創設等ヲ斷念シテ條約違反アリタル場合英案ノ即時協議ノ程度ニテ満足セサル

ヲ得サルノミナラス獨ノ軍備ヲ認ムルコトトナリ佛國側トシテ到底受諾困難ナルヘシト思考セラル今回ノ英案カ客年十月十四日當時ト異ナリ獨ノ再軍備ヲ承認セルニ對シ佛外務當局ニ於テ頗ル不満ノ意ヲ表シ居レリト傳ヘラル

殊ニ軍縮會議開催以來社會黨ヲ中心トセル歷代内閣ノ對獨政策比較的妥協性ヲ帶ヒ國防上ノ重要問題ニ關シ兔角讓歩勝ナリトノ非難右(脫)側殊ニ上院方面ニ擡頭シ對獨強硬説

ヲ稱フル者漸ク勢ヲ得ントスル時ニ當リ恰モ「ダラディエ」

第二次内閣ノ失敗ニ對シ巴里市内ニ反動的愛國的一大示威

運動行ハレ一大騒亂ヲ生シタル結果同内閣倒壊シ「ドームルグ」ノ舉國一致内閣出現スルニ至リ新政府ノ方針ハ勢ヒ反動的ナラサルヲ得スト想像セラレタル處俄然昨十五日夕發表セラレタル「バルトウー」外相ノ對獨回答(往電第九二號)ハ内容可成り强硬ナルヲ感セシム佛國側態度硬化ノ原因トシテハ種々ノ觀方アルヘク「ヒツトラー」政府ノ存

獨ノ將來ニ關シ或ハ「ヒツトラー」政府ハ宗教團體勞働者<sup>(教)</sup>在其者カ佛國及其ノ與國ニ對シ既ニ大ナル脅威ナルト共ニ

ニ出ツレハ獨ノ主張ニ一頓挫ヲ來スヘシトノ見方モ有ルカ

等即時實現要求ニ對シ佛ハ獨ノ右要求ヲ以テ軍縮ノ精神ニ悖ルモノトシ權利平等ハ條約ノ第三期ニ於テ而モ漸進的軍縮ニ依リ認ムヘシトナシ要スルニ尤モ難關タル獨ノ兵員(S、S、S、A等ノ軍事的組織團体ヲ含ム)及權利平等實現ノ時機ニ付テハ根本的ニ意見ヲ異ニス

英、伊ハ獨ノ軍備ノ已ムナキヲ認メ又獨ノ壽府復歸ヲ以テ右承認ノ條件トナシ一脈相通スル所アルモ獨ノ軍備承認ノ程度權利平等乃至軍縮實現ノ劃策ニ付テハ兩者ノ間ニ大ナル徑庭アリ即チ英ハ條約期間ヲ比較的長期(十年)トナシ

方獨ノ軍備ノ部分的承認(ハ順ノ戰車一五五「ミリ」ノ移動砲、高射砲ニ付テハ獨ノ要求ヲ認ムルモ軍用機ニ付テハ二年後ノ問題トシ兵員ニ付テハ獨要求ノ三十萬ト英條約案ノ二十萬トノ間に於テ決定セムコトヲ求ム)ニ併セテ他方佛等ノ段階的軍縮(戰車五年移動砲七年軍用機ニ付テハ存續ノ場合十年)ヲ計畫シ即チ再軍備ト實質的軍縮ノ併用ニ依ラムトスルニ對シ伊ハ條約期間ヲ比較的短期(五、六年)トシ獨ノ軍備ノ完全ナル承認ト佛等ノ軍備休止ヲ骨子トセントス

英伊兩案ニ對シ佛國ノ態度ヲ考察スルニ從來安全保障トシ

階級等ノ政府施設ニ對シ失望憤懣等ノ事由ニ基キ倒壊セストモ限ラス其ノ場合

次テ來ルヘキハ共產主義ノ勃興ナルヘク之ニ對應スヘク相當ノ處置ヲ講スルヲ要スト爲スモノアリ或ハ「ヒツトラー」政府存續ノ場合ニ於テモ國內ノ事情窮迫シ政權ノ基礎動搖ヲ來スニ於テハ國內ノ爆發ヲ防カシカ爲矛ヲ隣國ニ向クル事無キヲ保セストスル者アリ何レノ場合ニ於テモ形勢ノ見へ透カサル間ハ獨ノ隣接國ニ於テ此ノ上ノ軍縮ハ考ヘラレスト爲スモノノ如シ

而シテ此等ノ不安カ佛國ノミナラス獨ノ隣國ヲシテ軍縮ヲ躊躇セシムルハ已ムヲ得サルモノナルモ佛カ徹底的ニ再軍備ヲ否認ストセハ獨佛間ノ妥協成立ノ見込無ク茲ニ軍縮會議ノ決裂ヲ來シ軍備競爭ノ端緒ヲ開クモノト見サルヲ得ス而シテ佛カ決裂ヲ賭シテ自說ヲ固執センカ爲ニハ米ノ非難英ノ反感ヲ排シテ突進スルノ覺悟無カル可カラス佛ニ果シテ夫レ迄ノ決心付ク可キヤ單ニ軍備問題ノミナラス諸般ノ外交關係ヲ考慮スル要アル佛國トシテハ斯クノ如キ突進の決斷ヲ爲スニハ眞ニ容易ノ事ニ非ス尤モ佛力強硬ナル態度ニ出ツレハ獨ノ主張ニ一頓挫ヲ來スヘシトノ見方モ有ルカ

如シト雖モ獨ノ軍備平等說ニ對シテハ既ニ英伊ノ主張<sup>義</sup>上ノ贊同有ル今日佛ノ硬化カ果シテ幾何ノ權威ヲ有シ得ヘキヤ之亦疑問ト言ハサルヲ得ス佛獨間軍縮商議ノ形勢既ニ混頓タルノミナラス最近ニ至リ塊國內ノ擾亂勃發シ形勢ノ推移如何ニ依リテハ獨塊間「アンシユルス」ノ出現有ルヤモ計リ難ク意外ノ危機ヲ招來セストモ限ラス事態斯クノ如クナルカ故ニ軍縮ノ前途尙頗ル遠遠ナルヲ思ハシム

在歐各大公使、壽府へ暗送セリ

46 昭和9年5月24日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

来るべき一般委員会においてソ連が安全保障

問題に関する提案を行なうとの情報について

ジュネーヴ 5月24日後発  
本省 5月25日前着

軍第七四九號

理事會開催中「リトヴィノフ」來壽シ「バルトウ」ト會談シタル後佛國內ニ急用ニテ赴キタル處右會談内容ニ付種々ノ臆說ヲ生ミ居ルモ廿三日午後事務局筋ヨリノ聞込ニ依レ

47 昭和9年5月25日 広田外務大臣より  
ジュネーヴ一般軍縮會議全權宛(電報)

今次一般委員会においてソ連が安全保障條約案を提議するとの報道につき真相査報方訓令

本省 5月25日発

暗<sup>+</sup>第二四號

一二二日壽府發聯合ハ「リトヴィノフ」ハ

(イ)一國力他ヨリ侵略セラレタル場合全世界ノ各國ハ直チニ對策協議ニ參加スルコトニ同意スルコト

(ロ)歐洲大陸諸國(英國ヲ除外スル意ナル由)ハ侵略國ニ對シテ共同行爲ヲ執ルヘキ防禦條約締結ニ同意スルコト  
ヲ骨子トスル安全保障條約案ヲ二十九日ノ一般委員會ニ

提出スル意図ヲ有シ既ニ「バルツー」外相ニ對シ本案ニ關シ税<sup>稅</sup>得スル所アリタル旨ヲ報シ居レリ  
三、右ニ關シ同日附壽府讀賣特電ハ波蘭ハ本件條約成立セハ將來萬一日「ソ」又ハ「ソ」獨相爭フ場合關係各國力其ノ禍<sup>禍</sup>中ニ投セラレ歐洲大戰ノ慘禍ヲ再來スヘキヲ以テ本件條約締結ヲ條件トスル「ソ」ノ聯盟加入ニハ反對ノ意嚮ヲ有スル旨報シ居レリ  
三、右ノ眞相御内探ノ上至急回電アリタシ  
「ソヴィエト」聯邦、英、佛、獨及波蘭ニ轉電アリタシ

48 昭和9年5月29日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

一般委員会議長よりの危機的状況下にある会議成功方協力要請および会議を常設的平和会議に変更すべしとのソ連提議について

ジュネーヴ 5月29日後発  
本省 5月30日前着

二十九日午後一般委員會開催議長ヨリ外交交渉ノ結果ハ諸

ハ蘇聯邦ハ來ル一般委員會ニ於テ安全問題ニ關スル提案ヲ爲サンツスルノ意思ヲ有スル趣ナルニ付「リ」、「バ」會談ハ右ニ關スル打合ヲ主タル目的トセルモノニアラスヤト推測セラル

佛ニ轉電シ、在歐洲各大使(土ヲ除ク)米へ暗送セリ

軍第七五三號

(適當有効ナル國際組織)トナリ實際的性質ヲ有スル提案ハ何ニテモ考慮ス可ク協力ノ精神ヲ以テ成功ニ努力ス可シ

「リトヴィノフ」ハ「今ヤ主要國ノ意見ノ相違力軍縮問題ノ解決ヲ不可能ナラシムルコト明カトナレルカ右ハ不戦條約ノ精神ヲ具体化スル其ノ軍備全廢案ヲ採ラサル限り解決シ得サルモノナリ化學戰ノ禁止、軍備現狀維持ト云フ者アルモ世界ノ現狀ニ照シテ實際適用シ得ルモノトハ思ハレス

軍縮ハ安全ノ一形式ナルヲ以テ此ノ際會議ハ安全ヲ増進ス可キ他ノ方法ヲ考慮スルコト適當ナルヘシ本會議ニ於テモ既ニ右問題ノ特別委員會作ラレタルカ蘇聯ノ侵略ノ定義ノ贊成者增加セハ他ノ安全ニ關スル提案ノ適用ヲ容易ナランム可ク平和ノ攪亂者又ハ不戰條約ノ違反者ニ對スル制裁ニ關スルカ如キ定義モ研究セラルヘク一般的又ハ歐洲的ノ右規約ハ嘗テ佛國ノ提案セル相互援助ニ關スル別箇ノ地方協定ニ依リテ補足セラレ得可シ依テ會議ヲ定期的ニ開ク常設的平和會議ニ變更シ安全強化ノ方法ヲ擴充シ戰爭ノ危機傳ヘラル際之ニ有効ニ反應セシムルカ如クスヘキナリ之レ即チ本會議ヲ救フヘキ最適當ナル方法ナリト信ス」ト言ヒ散會ス次會ハ三十日午後

在歐米各大使ヘ郵送セリ

ソ連の常設的平和會議設置提案には漸次日本を孤立させる意図があるため今後の成行を注視すべき旨意見具申

ジユネーヴ 5月30日後発

本 省 5月31日前着

#### 軍第七五四號(極秘)往電第七五三號ニ關シ

會議ハ「リトビノフ」提案ヲ好感ヲ以テ迎ヘタリ其ノ演説ノ措辭モ頗ル外交的ニシテ明カニ特定國ト非難スル如キ形式ヲ執リ居ラサル點頗ル巧妙ト言フヘクスクリシテ國際輿論ヲ自國ニ引付ケ今日ヨリ國際平和機關ヲ動員シ歐米方面ヲ固メ漸次日本ヲ孤立セシメントスル下心ニ出テ居ルモノト察セラレ今後ノ成行我方トシテ注視ノ要アリ一般討議ハ猶兩三日繼續スヘク状勢如何ニ依リテハ我方モ立場闡明ノ必要ヲ生スヘシト存セラル

米、在歐各大使(土ヲ除ク)ニ轉電セリ

50 昭和9年5月30日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

#### 一般委員會討議における英・仏両国代表者間の相互批判的演説について

ジユネーヴ 5月30日後発  
本 省 5月31日前着

軍第七五六號

<sup>(1)</sup>三十日午後一般委員會討議ヲ續行ス「サイモン」ハ今日軍縮會議カ夫レ自體ノミナラス大戰來國際政治ノ基礎タル協調組織全體ニ影響ヲ及ホス重大ナル立場ニアル事ハ何人モ是ヲ認ム今ヤ現實ヲ直視シテ會議ノ將來ヲ決セサル可カラストシテ英國ノ外交交渉ニ盡セル經緯ヲ略述シ獨佛ノ妥協ノ成立ハ一般協定成立ノ根本的條件ニシテ且又英ノ一月二十九日覺書ノ「ライン」ハ適當ナル妥協案ナルニ不拘四月十七日ノ佛國覺書ハ外交交渉ノ繼續ヲ不可能ナルヲ示シタリ英政府ハ今日英案以上ノ具體的良案ナク覺書ニ明カニセル修正ハ妥協ノ基礎ヲ與フルモノト信シ居レリ丁、西、瑞典等ノ協同提案ハ英ノ見解ト接近セル點多ク愈其ノ確信ヲ得タリ安全問題ニ關スル「リトヴィノフ」ノ提案ニ付テハ

一九二四年「プロトコール」カ討議セラレタル時サエ安全機構ハ軍縮カ達成セラレル迄ハ重視セラレサルモノト考慮セラレタリ從テ會議ヲ軍縮ノ全然不可能ナル基礎ノ下ニ安全問題會議ニ變更スル事ハ方針ヲ新ニ變更スル事ニシテ又安全ノ價值ハ約束ノ事實ヨリモ約束履行ノ確實性ニアルヲ以テ一般的ノ保障ヨリモ限定的ノ「ロカルノ」條約ノ如キヲ遙ニ實際的價值アルモノト認ム吾人ハ今日無用ノ談議ニ耽ル可キニ非ス右方法ハ無用ナル印象ヲ與ヘ聯盟ヲ不信用ナラシメ他方必要トスル努力ニ障碍ヲ與フル事トナルヘシ<sup>(2)</sup>本會議討議ノ目的ハ從來ノ成果ヲ具体化スルニアリシカ爲既ニ一致セル點ニ付新ニ互讓シ或ル協定ニ達シ得サル可キヤ少ク共化學戰豫算公表常設軍縮委員會ノ三點ハ既ニ熟シ居レリト認メラル「デヴィス」ノ言ヘル武器取引及製造問題ニ對シテハ同感ノ意ヲ表スルモノニシテ其ノ爲ニハ先ツ一九二五年ノ取引條約ヲ批准實施スルコト可ナリト述ヘ次テ「バルトウ」ハ軍縮會議カ聯盟ノ死活ヲ左右スルコトヲ認メ會議カイ、加減ノ妥協ヲ爲ス可キ時機ハ過ぎ去レリ吾人ハ客年十月十四日ニ歸リテ考フル事ヲ要ス合理的且公平ナル基礎案ハ獨逸ノ脱退ニ依リテ失敗セルニ非スヤ聯盟ヲ

票ヲ得タルカ故ニ何等ノ不安ナク壇上ニ立チ得タルニ反シ  
英外相ハ議會ハ更ナリ政府部内ニモ種々ノ反對意見アリ自  
由ノ立場ニアリ得サリシカ故ニ其ノ演説モ豫メ原稿ヲ用意  
シ一言一句忽ニセサラントシタル次第ナリ自分ハ會議繼續  
ヲ絕對必要トスルモノニシテ其ノ間安全保障問題ニ目鼻ヲ  
着ケ度ク考ヘ居レリ而シテ自分等ノ欲スル所ハ歐洲ノ地方  
的協定ニシテ一九二四年ノ「プロトーコル」時代トハ十年  
後ノ今日世界的の状勢頗ル相違シ一般的協定ヲ夢見ルヲ得ス  
(此ノ點ニ關シ本使ハ同外相ノ言ヲ多トシ日本政府ノ常ニ  
主張セル點ハ安全保障條項ヲ地方的トスヘシト云フニ存シ  
之レ歐洲條項ハ必シモ極東ニ當嵌マラス極東協定ハ歐洲  
ニ餘リ(脱?)ナリ得ヘキヲ以テナリト言ヘルニ「バ」ハ之  
ヲ首肯セリ)又波蘭、波羅の沿岸諸國、蘇聯邦ニ獨逸ヲ加  
ヘ東方國境ノ「ロカルノ」(條約?)ヲ協定スヘク進ンテ地  
中海協定ヲ設クヘク事態茲迄進行セハ英國ト雖今日ノ如ク  
超然タルヲ得サルヘシトテ熱心ニ說述シ且ツ三十日ノ會議  
シ得ヘク又軍備ノ平等權ハ元來英國ニモ危險ヲ及ホスヘキ

性質ノモノニテ英人ハ未タ茲ニ氣附キ居ラサルニ過キス其ノ内感知スルニ至ルヘシトテ比較的樂觀ノ体ニ見受ケラレタリ  
在歐各大使、米ヘ轉電シ在歐各公使ヘ暗送セリ

52 昭和9年6月4日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

今後の會議運営方法に関する各国主張について

軍第七六五號

四日午後幹部會(非公開)開催今後ノ會議手續ニ關シ議論紛糾シ英ハ安全問題ニ關スル委員會設置若クハ會議變更ノ決議案ニ反對的態度ヲ示シ米ハ安全問題ハ獨逸參加シ居レハ一層容易ニ解決セラルヘキ處安全ニ到達スル最良ノ方法ハ軍縮ニ依ルモノニシテ軍縮ト關係無キ安全ニハ興味ヲ感セナルモ地方的協定ノ問題ハ全部ニ依リテ討議セラルヘキモノニアラサルヘシト言ヒ會議繼續ニハ強ヒテ反對セス佛蘇

モ脱退シテ何等ノ责任ヲ執ラサル獨逸カ總テノ權利ヲ用フ  
ルコトヲ許容シ得可キヤ英外相ハ一月二十九日ノ覺書ヲ以  
テ最上ノ具体案ト言フモ佛ハ一月一日ノ覺書ニ其ノ案ヲ示  
シ居レリ獨逸再軍備ト他方軍縮ヲ骨子トセ  
ルヲ以テ曖昧ノ點アルヲ以テ十七日ノ覺書ニ於テ右質問ニ  
ハ續行スルコト要シ一月一日ノ佛ノ提案ヲ考慮セサル可  
カラス安全問題ニ付テハ英米共ニ其ノ原則ヲ認メ「リトヴ  
イノフ」ノ演説ハ安全問題ヲ骨子トシ居レリ本問題ニ付テ  
ハ何人モ之ヲ考慮セサルヲ得サル可シト述ヘ散會ス次回ハ  
三十一日午後  
在歐米各大使へ郵送セリ

51 昭和9年6月2日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

安全保障問題につき仏は歐州の地方的協定  
を望むとの同国外相声明について

軍第七六一號

六月一日「バルトー」ノ小午餐會アリ「サイモン」、「モツターア」「イーマンス」、「グレーフ」(和蘭外相)「アブノル」及佐藤等參會ス和蘭外相ヲ招待シタルハ間接ニ獨逸ト連絡ヲ着ケンカ爲ナルヘシ佛外相ハ英、白外相ヲ左右ニ招シ食事中頗ル愉快ニ雜談ヲ交ヘ殊ニ「サイモン」トハ去ル三十日ノ緊張セル會議ノ經緯ニ拘ラズ縱横ノ意見ヲ交換談笑シ參會者一同兩外相感情ノ融和ヲ見満足セリ

食後「バ」ハ和蘭外相及本使二人立談ノ場所ニ來リ三十日演説ノ成行ニ付説明シテ曰ク自分ノ説明ハ各方面ニ可成リノ衝動ヲ與ヘタル模様ノ處語調烈シカリシハ自分モ之ヲ認ム但シ英外相ノ所言中佛國トシテハ沈黙シ得サル點アリシノミナラス事態ヲ明白ニサラケ出スヲ目的トシ且ツ原稿ナシニ爲シタル演説ニ付自然語氣高マリタルハ已ムヲ得ス而モ昨日巴里ノ閣議ニ於テ自分ノ態度確認セラレタルハ前例ナキコトナリ自分ハ此ノ度壽府ニ來ル直前下院ニテ今次ノ一般委員會ニ對スル佛國ノ對策ニ付演説シ大多數ノ賛成投在歐各大使、米ヘ轉電シ在歐各公使ヘ暗送セリ

性質ノモノニテ英人ハ未タ茲ニ氣附キ居ラサルニ過キス其ノ内感知スルニ至ルヘシトテ比較的樂觀ノ体ニ見受ケラレタリ

在歐各大使、米ヘ轉電シ在歐各公使ヘ暗送セリ

今後の會議運當方法に関する各國主張について

52 昭和9年6月4日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
広田外務大臣宛(電報)

ジュネーヴ 6月4日後発  
本 省 6月5日前着

四日午後幹部會(非公開)開催今後ノ會議手續ニ關シ議論紛糾シ英ハ安全問題ニ關スル委員會設置若クハ會議變更ノ決議案ニ反對的態度ヲ示シ米ハ安全問題ハ獨逸參加シ居レハ一層容易ニ解決セラルヘキ處安全ニ到達スル最良ノ方法ハナルモ地方的協定ノ問題ハ全部ニ依リテ討議セラルヘキモニニアラサルヘシト言ヒ會議繼續ニハ強ヒテ反對セス佛蘇

等ハ安全問題ヲ主題トシテ會議ヲ繼續セシメンコトヲ欲シ

タリ結局蘇ハ土蘇及六國提出ノ決議案ヲ打テ一案トスル起

草委員會ヲ作ルヘシト主張シタルモ米ハ議長及事務總長ニ

テ案文作製ヲ試ミンコトヲ提議シ英モ本日ノ議論ヲ果シテ

纏メ得ルヤ疑アリ正直ニ言ヘハ協定ニ達スヘキ要素見出サ

レスト思考スルモ米ノ提議ニハ賛成ナリト言フ依テ議長ヨ

リ議長「ボリティス、ベネシユ」及決議案提出ノ參加國ニ

加フルニ私的會談國タル英佛伊ヲ加ヘタル起草委員會ヲ作

リ一般委員ノ裁決スヘキ今後ノ「プログラム」ニ關スル何

等ノ方式ヲ提出セシメンコトヲ諮リ英ハ議長ノ提議自体ニ

ハ反對セサルモ起草委員會ノ採ルヘキ方針明カナラス之ヲ

明カニセントヲ望ミ伊ハ十八箇月ヲ費シテ到達シ得サリ

シ協定ヲ一夜ニシテ作り上クルハ不可能ノコトナリトテ起

草委員會ニ不參加ヲ闡明シ佛又參加ヲ辭退シ議長ハ斯テハ

起草委員會設置案ヲ撤回スル外無ク形勢ノ重大ニ顧ミ五日

午後更ニ幹部會ヲ開キテ討議ヲ續行スヘシト提議シ右ニ決

定散會シタリ

在歐米各大使ヘ郵送セリ

安全保障問題に対する我が方立場および我が方  
対ソ関係などにつき仏国外相と協議について

ジユネーヴ 6月6日前發

本 省 6月6日後着

### 軍第七六六號

<sup>(1)</sup> 安全保障問題ニ關シ「バルトウ」ト懇談ヲ遂ケ置クコト必

要ト考ヘ五日朝佐藤同外相ヲ往訪日本政府モ安全保障力軍

縮ト密接ノ關係ヲ有シ適當ノ保障無クシテ軍縮實現ノ困難

ナルハ能ク了解シ居ルモ本問題ハ地方別ニ考フルヲ要シ異

リタル地方ノ特殊狀況ニ適應セシムルコト必要ナルノミナ

ラス又保障條約締結ノ相手國ニ依リ保障ノ内容ヲ異ニスヘ

ク例ヘハ極東方面ニアリテハ日支間關係ノ現狀ニアリテハ

保障條約ノ締結ハ問題トナラス露國トハ先年同國ヨリ不侵

略條約締結ノ申出ニ接シタルモ日本政府ハ先ツ同國トノ間

ニ懸案トナリ居ル重要政治經濟問題ヲ解決シタル後ニアラ

サレハ同條約ヲ考慮シ得スト爲スモノニシテ折角該條約ノ

成立ヲ見タリトスルモ成立ノ翌日ヨリ其ノ基礎ヲ動搖セシ

(欄外記入)

ムルカ如キ未決條件殘存スル様ニテハ條約ノ締結ハ意味ヲ  
爲サストノ見解ヲ持続ス之ニ反シ米國トハ來年ノ海軍會議  
ヲ控ヘ太平洋上ノ安全保障問題ハ重要研究事項トナレリ何  
レニスルモ地方別若ハ相手國ニ依リ考フルヲ要シ佛外相カ  
主義上大體同様ノ見解ヲ有セラルルヲ多トス而シテ日本ハ  
軍縮ノ現狀カ歐洲問題ニ集中セラレ居ルニ顧ミ保障問題其  
ノ他ニ付テモ出來得ル丈ヶ傍観的態度ヲ執リ歐洲問題ノ解  
決ニ貢獻シ得サル迄モ鮮クトモ此ノ上障礙ヲ増ササル様心  
懸ケ居レリト説明シタル處「バ」ハ之ニ對シ充分理解アル  
態度ヲ示シ極東ニ於テ日本ノ有スル重要ナル使命ハ能ク了  
解シ居レリト述ヘ

進<sup>(2)</sup>ソテ蘇聯邦トノ關係ニ付數週間前ヨリ蘇滿國境ニ於テ事  
件頻發シ何レモ蘇側ノ挑發ニ基ク處是等ハ些細ナル國境上  
ノ出來事ニ過キサルモ今後モ蘇側ノ挑發連續スルニ於テハ  
不幸ナル事件擴大ヲ見ストモ限ラストテ懸念シ居ル旨ヲ告  
ケ但帝國政府ハ毫モ進ンテ蘇ト事ヲ構フル意思ナキハ屢聲  
明セル通ニシテ佐藤一個人トシテモ右ノ趣旨ヲ體シ平和維  
持ニ努力シ度考ナリト述フ同外相ハ右日本政府ノ態度ヲ多  
トシ出來得ル丈ヶ戰爭ハ回避セサル可カラスト爲シ自分等

尚「バ」ハ十一日ニハ巴里ニ歸還スルヲ要シ十八日ニハ多  
分「ブカレスト」ニ在ルヘシト言ヘリ

米及在歐各大使ヘ轉電セリ

(欄外記入)

54 昭和9年6月6日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
広田外務大臣宛(電報)

今後の會議運営に関する議長決議案とこれに對する仏國代表の反対意見について

別電 六月六日発ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
広田外務大臣宛軍第七六八號

右議長決議案

ジュネーヴ 6月6日前發

本省 6月6日後着

軍第七六七號

<sup>(1)</sup>五日午後幹部會續行議長ヨリ別電軍第七六八號決議案ヲ提出セルカ諾、波、西ノ意見ヲ容レテニ、三修正殊ニ第六點佛、伊、英、獨ノ覺書ヲ引照スルコトヲ削除シ且ツ第九點中武器取引製造ノ監督問題ハ即時研究シ得ル旨ヲ挿入セル新案ヲ再提出、右ニ對シ英ハ第六點原案ハ軍縮ノ現實ニ觸レ其ノ中心ヲ明カニセルヲ以テ原案ヲ優レリトシ伊ハ英ニ贊スルト共ニ第八及第十點ノ新修正案ニ異議アリト述フ

右ニ對シ議長ハ憤然トシテ「バ」氏ハ安全問題ヲ後ニ追遣

レリトテ余ノ公平ヲ疑フ如キ態度ヲ示セルモ第一、第三點共ニ安全問題ニシテ且第五點ハ佛ノ特ニ重視スル點ニアラスヤ議長トシテ討議ノ結果ニ鑑ミ何人モ受諾シ得ヘキ公平案ヲ出セルニ拘ラス公平ヲ疑ハレテハ議長ヲ辭スヘキノミニ二年半ノ辛抱モ此ノ二日ノ余ニ對スル「チャージ」ニ依リ堪忍袋ノ緒力切レタリ今ヤ吾人ハ何ヲ爲スヘキヤ「バ」ニ公平ナル「プログラム」ノ提出ヲ請フカ之カ容レラレスハ

ジュネーヴ 6月6日後發  
本省 6月6日後着

軍第七六八號

八時間ニ亘ル討議後何物モ得ラレサルコトヲ一般委員會ニ報告シテ閉會ヲ宣スルカノアルノミ吾人ハ何時迄モ會議ヲ遷延シテ世人ニ「イルージョン」ヲ抱カシムヘキニアラス軍縮アリテノ安全問題ナラスヤ希クハ「バ」ニ於テ安全問題ノミニ偏セサル提案ヲサレタシト言ヒ滿場緊張シタル處「バ」ハ冷靜ニ自分ハ權利トシテ決議案ニ對スル佛國ノ態度ヲ表明セル迄ニシテ語氣ニ於テ議長ノ感情ヲ害スル如キ點アリシナラハ謝スヘキモ内容ハ斷ンテ變更セス提案ヲ爲スヤ否ヤハ自分ノ考ナルコトニシテ何人ノ容喙ヲモ許サス余ハ非公開會議ニテ此ノ上議論スルヨリ公開席上責任ノ存在ヲ明カニセント欲ス議長ノ公正勇敢ナルニ敬服コソスレ議長ノ不公平ヲ攻撃シタルコトナシ希クハ辭職スルコト勿レト言ヒ議長モ稍柔ラキテ昨日「バ」氏ハ基礎委員會參加ヲ拒ミ今日決議案ヲ斥ケ提案ヲ爲スコトヲモ受ケ斯然ラハ吾人ハ何ヲ爲スヘキヤトテ六日午後幹部會ヲ續行シ一般委員會ハ事態明カトナル迄延期セント提議シ右ニ決ス別電ト共ニ歐米大使ヘ郵報ス

(一)條約締結ノ爲會議續行ノ希望各方面ニ表明セラレタルニ對シ満足ノ意ヲ表ス

(二)會議變更ノ蘇案ハ討議前各政府ノ審議ニ附スルコトトス(三)相互援助ニ關スル提案ハ先ツ直接關係國政府ノ商議ニ委ネ其ノ結果ヲ議長ニ通報スルコト最有効ト認ム

(四)右商議ニハ一切ノ直接關係國ノ參加ヲ適當ト爲ス土日古案ニ贊同ス

(五)六國案第一項ニ於テ提起セラレタル條約履行保障ノ問題ハ曩ニ條約一般規定ヲ審議セル巴爾幹特別委員會ニ附託ス(六)佛、伊、英、獨ノ覺書ニ於テ右政府ノ表明セル見解ニ依レハ協定到達ノ可能性若干アリト認ム

(七)幹部會ハ適當ナル一切ノ方法ニ依リ及參加方ヲ必要ト認ムル他ノ國ノ協力ニ依リ前記覺書ニ於テ殘存スル意見相違ノ妥結ヲ計ルヘシ

(八)最近三日間一般委員會ニ於テ提起セラレタル他ノ問題ハ一括シテ軍縮問題ハ一般委員會ニ安全問題ハ政治委員會ニ

(九)然レトモ各委員會ニ於テ右問題ヲ効果的ニ審議スルニハ豫メ政治的準備必要ニシテ尙早ナル審議ハ過去ニ遭遇セル困難ヲ惹起スルコト必然ナリト思考ス  
 (二)依テ議長ニ右準備ノ中止ヲ委嘱シ且議長ニ政治問題力充分ナル進展ヲ示シタル際軍縮又ハ安全ニ關スル問題ノ研究ヲ開始セシムルノ權限ヲ與フ

~~~~~

55 昭和9年6月7日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
広田外務大臣宛(電報)

今後の會議運営に関する仏國提案とこれに対する主要國代表意見について

別 電 六月七日発ジュネーヴ一般軍縮會議全權より

広田外務大臣宛軍第七七七二号

右仏國提案

ジュネーヴ 6月7日後発  
本 省 6月7日後着

軍第七七一號

六日午後幹部會續行五日ノ「バルトー」「ヘンダーソン」

~~~~~

テハ何事モ答へ得サルヘシトテ其ノ構成ニ反対シ結局八日前迄幹部會ヲ延期シ其ノ間ニ關係國間ニテ下相談ヲ爲スコトトシ同日午後一般委員會ヲ開催スルコトニ決定シタリ尙議長ハ佛ノ希望ニ満足ヲ與ヘテ幹部會ヲ公開センコトヲ計リ可決セラル  
別電ト共ニ在歐米各大使へ郵送セリ

(別 電)

ジュネーヴ 6月7日前發  
本 省 6月7日後着

軍第七七二號

會議ハ政府間ノ個別商議ヲ害スルコトナク遲滯無ク既ニ着手セラレタル研究ヲ續行スルコトヲ決心シ左記ヲ決定ス

(一)、安全保障

(イ)、會議從來研究ノ結果一年來歐洲ニ於テ數個ノ地方的安全協定成立セルニ鑑ミ政治委員會ヲシテ同種ノ新協定締結ノ爲適當ナル方法ニ依リ速ニ研究ヲ再開セシム

(ロ)、他方政治委員會ヲシテ必要アラハ監督條項ヲ完備セシムルト共ニ條約履行保障ヲ研究セシム

## 二 國際連盟における諸問題

電第七七二號ノ趣旨ノ提案ヲ爲シタルヲ以テ諸決議ヲ調整スル起草委員會ヲ作ランコトヲ提議シ「バ」ハ佛案ニ註釋ヲ加ヘタル處米ハ公開ノ席上ニテ案ノ内容ヲ立入りテ議論スルモ困難ヲ減シ難ケレハ考慮ノ餘裕ヲ得ンカ爲八日迄幹部會ヲ延期スルヲ可トスヘシト言ヒ瑞西ハ六國案ハ佛案ト近接セルヲ以テ凡テノ受諾シ得ルカ如キ一案ヲ作成シ提出スヘント豫告シ起草委員會構成ニハ贊成ナルカ英佛伊之ニ加ハルヘキナリト述ヘ佛ハ其ノ提案ヲ爲セル今日參加ヲ辭セスト答ヘ英ハ起草委員會ニ反対セサルモ其ノ調整スル基礎案ハ幹部會ニ提出セラレタル議長案佛案及「モツタ」ノナス提案ニ限ルベク且四箇國間ノ覺書ハ幹部會ノ要求ニ依リ開カレタル外交交渉ノ產物ニシテ會議ニモ通告セラレタルモノナルヲ以テ他ノ文書ト同様會議文書ナレハ之ヲ無視スヘカラスト念ヲ押シタル上右三案ニ付妥協カ出來得レハ素ヨリ結構ナルモ果シテ其ノ望アリヤ議長案ハ最モ公平ト認メラルニ拘ラス全部ノ容ルル處トナラサリシハ遺憾ナリト述ヘタリ右ニ對シ米ハ今直チニ起草委員會ヲ作ルコトハ尙早ニシテ自分ノ意見ヲ求メラルモ熟考ノ時間ナクシ

56 昭和9年6月9日 広田外務大臣より  
ジュネーヴ 6月9日前發  
本 省 6月9日後着

(二)、空軍委員會ヲシテ一昨年七月決議ノ空軍條項ノ諸問題  
(民用航空ノ國際化、空爆禁止、空軍縮少等)ヲ研究セシム

(三)、武器製造取引問題ハ特別委員會ニ附託ス

右三委員會ハ幹部會調整ノ下ニ併行シテ開催ス尙會議變更ニ關スル蘇案ヲ議長ヨリ各國政府ニ附議ス

佐藤大使ヘ  
貴官累次ノ御説明ニ依リ佛國側ニ於テモ安全保障問題ニ關スル帝國政府ノ意向ヲ漸次諒解シ來レルヤニ認メラル處佛蘇接近等ノ氣運顯著トナレル今日特ニ佛國當局ニ我方立場ヲ「インプレス」シ置クコト肝要ナルヘキニ付今後モ機

會アル毎ニ左記趣旨ヲ御説示置相成度シ

軍縮ハ安全感ニ脅威ヲ與ヘサル程度ニ於テ爲サレサルヘカラサルハ軍備ヲ認ムル以上當然ノ理ナルモ帝國政府トシテハ安全ノ内容、條件ハ國若ハ地方ニ依リテ異ナラサルヘカラス從テ條件ヲ同フル國ト各別ニ合作スヘキモノナリトノ見解ヲ堅持シ居ルコト累次ノ電報ニヨリ御承知ノ通リニシテ佛國ノ如キ安全ノ保障ハ軍縮ノ前提ナリトナスハ蓋シ歐洲ノ特殊政情ニ基クモノニシテ右佛國ノ見解ノ如キ偶々安全ノ内容ハ國若ハ地方ニ依リテ異ルトノ前記趣旨ノ例證トシテ見ルヘク之ヲ以テ帝國ノ東亞ノ實狀ヲ根幹トスル平和確保ノ方針並ニ軍縮ニ對スル方法ヲ律スルヲ得サルヘキモノナリ

現ニ支那ノ無秩序狀態ハ歐洲諸國ノ如キ國際法上ノ義務ヲ遂行シ得ルヤ疑ハシク又何時「ボイコット」等ノ侵略手段ニ出ツルヤ保シ難ク加之外國人ノ生命財產ノ安全スラ確保スルノ實力ヲ缺ク實狀ニ於テ安全保障ノ條約ヲ締結スルカ如キハ相手國カ片務的ニ束縛セラル結果ヲ來シ(聯盟ニ於テ支那カ權利ノミヲ主張シ居ルハ其適例ナリ)到底承諾シ難キハ佛國政府トシテモ容易ニ了解スル所ナルヘシト思

リ例ヘハ侵略者ノ範圍ノ如キモ歐洲ノ侵略者ニ限ルカ如キ措辭ヲ用ヒムコトヲ希望セサルヲ得ス  
在歐米各大使ニ轉電シ在歐米各公使ニ郵送アリ度シ

57 昭和9年6月9日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
広田外務大臣宛(電報)

### 今後の會議運営に関する仏國修正決議案と一般

#### 委員会における同素採択について

別 電 六月九日發ジュネーヴ一般軍縮會議全權より

広田外務大臣宛電第十七四号

右仏國修正決議案

ジュネーヴ 6月9日前發

本 省 6月9日後着

軍第七七三號

考ス從テ佛國等カ歐洲ノ實狀ニ即シ多數國間ニ安全ノ保障ヲナシ之ヲ普遍化シ支那ノ如キ責任ヲ取り得サル國ヲモ引込ムトセハ保障自体ヲ弄ブモノト云フモ過言ニアラスシテ結局東亞ノ平和確立ニ障害ヲ及スモノト言フヘク帝國ノ甚タ迷惑トシ贊同シ得サル所ナリ「ソ」聯邦ニ付テモ侵略者ノ定義等ノ條約ハ歐洲諸邦トハ事情ヲ異ニスル東亞ニ於テ現ニ外蒙古等ノ邊疆ヲ侵略シ支那ヲ赤化シ東亞ノ平和ヲ攪亂スル手段ヲ選ハサル同國ト此種條約ヲ結フカ如キ深甚ノ注意ト研究ヲ要スル次第ナリ從テ我方トシテハ「ソ」ト假令或種ノ條約ヲ結フトスルモ歐洲ニ適用セラルカ如キ條約ノ當事者トナリ得サル次第ニシテ前述ノ如ク二國間ニ於テ相互ニ現實ニ平和ヲ確保スル手段ヲ講スルヲ以テ實質ニ即シタル方法ナリト信スルモノナリ前記ノ理由ニヨリ佛國トシテハ帝國ニ對シ非友誼的根膽ナキハ充分承知シ居ルモ「ソ」側カ將來之ヲ如何ニ悪用スヘキヤハ佛國側トシテモ豫見シエサルヘキヲ以テ「ソ」ノ提倡スル相互援助案ノ如キ名ハ地方的協定ト言フモ其内容如何ニヨリテハ非締約國ニ對スル同盟又ハ「ブロック」ヲ形成シ其結果ハ東亞ニ波及セサルヲ保セサルヘキヲ以テ内容及適用ヲ嚴ニ歐洲ニ限

此ノ原則ヨリ見テ決議案ノ諸委員會ニ對スル態度ヲ決ス可シトノ留保ヲ爲シ波ハ外交交渉關係國交換文書ハ未タ一般委員會ニ於テ審議セラレサルヲ以テ其ノ内容ニ就テハ波ハ其ノ態度ヲ束縛セラルモノニアラサルコトヲ留保シタル外異論無ク右決議案ヲ一般委員會ニ勸告スルコトニ決定ス次テ一般委員會開催佛ヨリ修正決議案ヲ説明シ米ノ盡力ヲ感謝シ米佛ノ友好關係ヲ高調シタル後英佛間ノ友好關係カ歐洲和平ノ基礎ナルヲ述ヘ佛ハ獨ノ聯盟復歸ヲ歡迎スルモノニシテ獨ニ對スル包圍政策ヲ採ルモノニアラスト言ヘル處英米ハ右ニ答ヘテ協調互讓ニ依リ決議案ノ成立シタルヲ祝シ條約成立ニ到達センコトヲ希望シ蘇ハ決議案ノ成立シタルヲ就テ何等反對スヘキ項目ナク軍縮諸問題ニ付研究スルハ可ナルモ安全問題ノ重要性ヲ忘ル可カラス戰爭ノ危險ハ今日減スル所無ク今回壽府ニ來リテ諸國ノ政治家ト談合ノ機會ヲ得多クノ者ハ危險ノ存在ヲ認メ之ヲ除去スルノ必要ナルヲ認識セリ吾人ハ之ヲ欣快トスト言ヒ瑞典ハ六個國ノ名ニ於テ決議案ニ贊成シ洪、勃、燠ハ速ナル平等權ノ實現ヲ希望シ結局會議ハ伊、波ノ留保ノ下ニ決議案ヲ採擇シタリ

尚十一日午後決議事項ニ付テ一般委員會ヲ開催スルコトニノニシテ此ノ原則ヲ明カニ認メサル決議案ニハ賛成シ得ス

決セリ

別電ト共ニ在歐米各大使ヘ郵送セリ

(別電)

58 昭和9年6月9日 ジュネーヴ 6月9日前発  
本省 6月9日後着

ジュネーヴ 6月9日後発  
本省 6月10日前着

軍第七七四號

(一) 前文ニ「一月ノ英佛伊覺書及四月ノ獨宣言ノ齋ラセル「ブレンジヨン」ヲ考慮シ」ノ本旨ヲ挿入シ又前文中ノ「會議」ヨリ「ナク」迄ヲ削除シ決定事項中ニ「獨ノ會議復歸ニ依リ最終ノ成功ヲ容易ナラシムル爲ハルヘキ政府間ノ個別商議ヲ害スルコトナク幹部會ハ適當ナル方法ニ依リ軍縮條約ノ一般的受諾ノ爲未解決ナル諸問題ノ解決方法ヲ考究ス」トノ趣旨ヲ挿入ス

(二) 安全問題(イ)「鑑ミ」以下ヲ「會議外ニ於テ行ハルヘキ同種ノ新協定締結ヲ容易ナラシムル目的ヲ以テ適當ナル豫備的研究ヲ續行スル爲特別委員會ヲ設ク」トロ(ロ)「條約履行保障及監督問題審議ノ爲特別委員會ヲ設ク」トノ主旨ニ修正ス

正ス

~

軍第七七六號

(欄外記入) 會議ハ往電第七七三號ノ通數箇ノ委員會ヲ設ケ繼續スルコトトナリタルモ日本側ノ關スル限り益々以テ積極的參加ヲ要セサルヘキニ付漸次目立タサル範圍内ニ於テ全權部ヲ縮少シ結局ニ於テ陸海軍側ノ隨員ハ各一名(雇員ハ別トス)トシ外務側ハ專任ノ隨員ヲ置カス委員會開催等ノ場合ニハ國際會議事務局ニ於テ議事ヲ「フオロウ」スルニ止メ若シ後日局面轉回シ我方ノ積極參加ヲ要スル事態トナリタル曉ニハ在外又ハ内地ヨリ必要ナル人員ヲ呼寄スルコトトシ然ルヘキヤニ思考セラル

(欄外記入)  
陸海軍必要アリヤ

~

59 昭和9年6月11日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

今次一般委員会決議に基づく各委員会構成について

軍第七八〇號

ジュネーヴ 6月11日後発

六月十一日午後一般委員會開催經過大要左ノ通

一、一般委員會ノ決議ニ從ヒ委員會構成ヲ議シ  
(イ) 相互援助協定問題ノ安全委員會ハ「ボリチス」ヲ議長トシ全歐洲諸國ヲ以テ組織ス

右ニ對シ伊及洪ハ「オブザーヴァー」ノ態度ヲ採ルコトヲ聲明シ英ハ英ニ關スル限り「ロカルノ」條約アリ相互援助協定ハ歐洲ノ他ノ國ニ於テ結ハルヘキモノナリ但本委員會ニ委員ヲ參加セシムルコトヲ辭セスト言ヒ蘇ハ先ツ歐洲地方協定ヲ研究シ順次他ニ及ハシメント欲スルモノナルコトヲ述ヘ議長ハ本委員會ノ委任ハ限定セラレ居ラス歐洲地方協定カ出來タル後他地方ノ研究ニ移ルヘク其ノ際歐洲外ノ國ノ參加差支無キモノトスル了解ノ下ニ

構成セラルモノナルコトヲ明カニス

(ロ) 監督及條約履行保障問題ニ付テハ Bourquin 監督委員會ニ之ヲ研究セシメ從來ノ參加國ニ和蘭ヲ加ヘム Bourquin ニ於テ必要ト認ムル際ハ他ノ國ヲ加フルコトヲ得ルモノトス

(ハ) 空軍問題ハ「マダリアガ」ヲ議長トスル「コミニッテー、アエリエン」ニテ研究セシム

(二) 武器取引及製造問題ハ Scavenius ヲ議長トスル武器取引及製造委員會ニ於テ研究セシム從來ノ參加國ニ瑞西ヲ加フ右ニ對シ墨ハ「ヴェネゼラ」參加ヲ希望シ容レラル

三、國防委員會議長 Vasconcellos ノ提議ニ從ヒ專門分科會ノ公表案ニ從ヒ各國ヨリ十月十五日迄ニ最近ノ豫算年度ニ關スル文書ヲ送付センコトヲ勸告ス右ニ對シ佛ハ右ハ將來豫算制限制度ニ關スル決定ヲ妨クルモノニアラストノ了解ノ下ニ贊成スルモノナルコトヲ明カニシ英ハ豫算公表ハ軍縮條約成立ノ根本の一要件ナルカ故ニ之ヲ歡迎スト言ヘリ  
三、幹部會ハ當分外交交渉ノ進行ヲ待ツコトトシ若シ關係國政府カ之ヲ遲延スル場合ニハ自ラ活動スヘク特別事項ニ關係アル國ハ何國モ幹部會ニ招致セラルヘシ

いて

98

60 昭和9年6月12日

在ジユネーヴ横山国際会議事務局長代理兼総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

パリ 6月14日後発

本省 6月15日前着

米国代表が太平洋方面においては相互援助協定などの新協定は必要としない旨語ったとの情報について

第一四一號

諜報者ノ内報ニ依レハ十一日一般委員會終了後「デヴィス」ハ某記者ニ對シ安全問題委員會ノ相互援助協定問題カ歐洲ヲ目的トスルハ結構ニシテ米國ハ太平洋方面ノ葛藤ニハ捲込マルヲ欲セス同方面ニ付テハ九國條約及不戰條約モアリ今更此ノ種新協定ノ必要ヲ認メ居ラスト語リタル趣ナリ英、佛、米ヘ轉電セリ

61 昭和9年6月14日

在仏国佐藤大使より  
広田外務大臣宛(電報)

本省 6月13日前着

往電第五〇號及第五一號ニ關シ

當地各方面ノ情報ヲ綜合スルニ

一、地方的相互援助條約案ハ從來聯盟ニ於テ研究セラレシ所ナルモ今回露國カ「セキュリティ」ニ關聯シ該案ヲ主張スルニ及ヒ國際政局上重要性ヲ帶フルニ至レル次第ナルカ蘇ノスル提議ヲ爲スニ至レル理由ハ軍縮會議ノ成行ニ胚胎シ難局ニ陥リタル歐洲政局ノ現狀ヲ機會トシ相互援助條約案ナルモノヲ利用シ露國ノ假想敵ヲシテ世界ノ輿論ノ前ニ孤立セシメ又ハ之ヲ窮地ニ陥レ以テ自己ノ地位ヲ改善セントルニ出テタル露國一流ノ遣口ナリ

二、然ラハ露國ハ何レノ國ヲ目標トスルヤニ關シテハ佛獨間現在ノ形勢並ニ巴爾幹ノ現狀ヲ利用シ佛、小協商及巴爾幹ノ諸邦ヲ糾合シ相互援助ノ名ノ下ニ一種ノ政治團結ヲ構成シ獨逸ヲ孤立セシメントスルモノナルコト明白ナルモ

他方ニ於テ露國ハ最近對獨關係ヲ改善セントノ意図ヲ有シ(其ノ可能性ハ別トシ)居ルモノノ如ク現ニ當地ノ獨逸公使ノ如キ今回ノ在獨蘇大使ノ更迭ヲ以テ其ノ努力ノ前兆ニアラスヤト語レル位ナレハ露國ノ眞意ハ獨逸ニ對抗スルコト(ニ)アルハ勿論ナル可キモ獨逸ヨリモ寧ロ日本ヲ主トスル

第三二九號(極秘)  
貴電(合)第六六七號ニ關シ

「リトヴィノフ」ハ過般ノ壽府軍縮會議中八日議長ニ對シ日蘇戰爭避クヘカラストテ頻ニ危險切迫ヲ「インプレス」シタル趣ニテ議長ハ軍縮部長ニ對シ折角本會議ニ於テ戰爭ヲ避ケントシテ努力シツツアル際蘇カスノ如キ言辭ヲ弄スルハ其ノ採ラサル所ナリト言ヘリトノコトナリ

62 昭和9年6月18日

在ボーランド伊藤(述史)公使より  
広田外務大臣宛(電報)

本省 6月19日後着

相互援助条約提案などに見られるソ連の反日の外交意図について

第五二號(極秘)

ワルシャワ 6月18日後発

本省 6月19日後着

モノト一般ニ觀察シ居レリ

三、殊ニ露國ノ歐洲ニ於ケル一般ノ遣口ヲ見ルニ(極東ニ於ケル行動ハ暫ク措キ)其ノ通信社、新聞紙ヲ通シ常ニ排日ノ報道論説ヲ傳播シ恰モ我國カ最モ危険ナル侵略國ニシテ戰爭ヲ準備シツツアル如ク宣傳シ居レルカ兩三日前ヨリ明年ノ海軍會議開催ヲ引掛ニ日本ハ右會議ニ於テ法外ナル要求ヲ爲シ爲ニ會議ハ不成功ニ終ル可シトテ對日宣傳ノ鋒先ヲ新タニシ所謂輿論ナルモノニ對シ相當刺戟ヲ與ヘ居レリ(從テ貴電合第六六七號日蘇間開戦ノ如キハ露國宣傳ノ一班ニシテ全部ニアラサルコトハ注意ヲ要ス)

斯ル霧闇氣ニ於テ蘇ハ相互援助案ヲ提議シタルモノニシテ一方其ノ立場ヲ正當化スルト同時ニ他方我國ノ立場ヲ不利ナラシムルモノナルコト明白ナルヲ以テ名目ハ同シ相互援助案ト云フモ蘇ノ提議ニ係ルモノナル以上歐洲ニ關スル限り於テモ對岸ノ火災視スルコトヲ得ス此ノ點貴電第二八號ニアル如ク累次御訓電ノ次第トハ頗ル異リタル考慮ヲ以テ考察スルノ要アリト思考セラル

四、素ヨリ蘇案ハ案自体ニ基ク難點鮮カラサルノミナラス歐洲ニ於テモ獨、伊ハ反対スヘク更ニ英、米ハ圈外ニ立ツコ

ト略推斷シ得ヘキ次第ナレハ其ノ前途ニ相當困難横ハリ其ノ成否スラ不明ニシテ蘇自身斯ル形勢ニ於テ何處迄主張ニ努力スヘキヤ計リ難キ有様ナリト雖萬一ノ場合ヲ考慮ノ上蘇ノ排日宣傳同様本件ニ付テモ然ルヘク御對策ヲ講セラルコト焦眉ノ急ナラスヤト存セラル

英、佛、獨、露ヘ轉電シ土、羅ヘ暗送セリ

題ノ如ク既ニ審査ノ充分進捗セルモノニ付テハ個別の「プロトコール」ヲ作成スル方法ヲ採用スルヲ可トスヘシトノ意見ヲ述ヘ居レリ

英、佛、米、獨、白、伊、土、蘇ニ郵送セリ

英、佛、獨、露ヘ轉電シ土、羅ヘ暗送セリ

63 昭和9年11月5日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より

廣田外務大臣宛(電報)

議長の會議議事進行方法変更提案に關し今後の會議議事方法については大勢に順應すべき旨訓令

本省 11月17日発

暗軍第四三號

議長より從來の一般的軍縮條約作成を目的とする方針を変更し審議が進捗した各個別的問題毎に議定書を作成したいとの意見通知について

ジュネーヴ 11月5日後発

本省 11月6日前着

軍第八〇六號

五日議長ヨリ本月二十日幹部會招集ノ旨通知越セリ今後ノ

議事進行方法ニ付討議アル筈

右通知中議長ハ從來一般軍縮條約ノ作成ヲ目的トシ來レルヲ變更シ武器問題、國防費問題、常設軍縮委員會設置ノ問

64 昭和9年11月17日 広田外務大臣より

ジュネーヴ一般軍縮會議全權宛(電報)

議長の會議議事進行方法変更提案に關し今後の会

議議事方法については大勢に順應すべき旨訓令

本省 11月17日発

貴電第八〇六號ニ關シ

一、會議今後ノ議事方法ニ關シテハ大勢ニ順應セラレ差支ナシ尤モ常設軍縮委員會設置ノ問題ハ主トシテ歐洲問題トモ認メラルルモ我方トシテハ之カ目的及内容ヲ知ルニ非レハ俄ニ贊否ヲ表明シ難キニ依リ右御會置<sup>(合意)</sup>アリ度シ

二、會議今後ノ討議事項タルヘキ各問題ニ付テハ大體從來ノ訓令ニ依ラレ差支ナキ兵器取引製造<sup>(貿易)</sup>方締ニ關シ新規ナル條約案等提出セラルル場合ニハ其ノ内容ヲ承知シタル

上ニテ改メテ當方ノ意見申進スヘシ

65 昭和9年11月20日 ジュネーヴ一般軍縮會議全權より  
廣田外務大臣宛(電報)

議長の會議議事進行方法変更提案に対する幹部  
会各國代表の賛意表明について

ジュネーヴ 11月20日後発

本省 11月21日前着

軍第八〇七號

二十日軍縮幹部會開催議事概要左ノ通り

議長ヨリ往電軍第八〇六號ノ通り武器問題常設軍縮委員會設置問題國防費問題ニ關シ一般條約ト離シ個別的ニ審議セシコトヲ提案シ米國代表ハ議長案ニ贊意ヲ表シタル後同政府ハ武器問題及常設委員會問題ニ關スル條約案ヲ作成セリ

トテ其ノ大意ヲ略説シ該提案ハ各委員ニ配布シ研究ヲ求ムヘシト述ヘ(閉會直前ニ配布セリ要領追電ス)議長ハ各國代表ヨリ右條約案ヲ本國政府ニ送付シ其ノ意見ヲ議長迄通報方依頼スルト共ニ關係委員會ニ該案ヲ送リ直ニ研究セシメンコトヲ提議セリ

次テ蘇聯代表「リトビノフ」ハ米案ニ大体贊意ヲ表セル後軍縮問題解決上普遍性ノ必要ヲ説キ常設軍縮委員會ハ須ク軍縮常設平和會議トナシ固有ノ軍縮問題ノ外ニ關聯スル一般平和問題保障問題等ヲ審議セシムヘキヲ説キ西國代表「マダリアガ」ハ議長案ニ贊成セル後米案ニモ贊意ヲ表シ唯之ヲ遠慮勝ニ過クト評シ豫算公表及武器問題ニ對スル監督ノ必要ヲ強調セル後米案ハ今後委員會ノ討議ノ基礎トルモノナリヤ若ハ單ニ各國ノ參考ニ資スルモノナリヤト質シ(右ニ對シ議長ハ前述ノ通米案ニ對シテハ單ニ各國ノ意見ヲ求ムモノナルカ委員會ニ對シテハ其ノ研究ノ基礎トシテ交付スヘキモノナル旨説明ス)更ニ「リトビノフ」ノ意見ニ對シ常設委員會ハ勿論政治上ノ問題ヲモ審議スヘク「リ」ノ言フ平和會議ハ別ニ之ヲ設ケストモ常設平和機關タル聯盟自体ニ委ヌレハ可ナリト說ケリ

英國代表ハ不安ナル歐洲ノ現状ニ顧ミ各國獨立維持ノ必要安全保障ニ關スル國際協定ヲ説キ

英國代表「エデン」ハ議長提案ニ贊成シ「リ」ノ普遍性ニ關スル所說ニモ同感ナルカ現狀トシテハ議長案ノ如ク爲スヨリ外ナカルヘク或國ノ參加ナクトモ之ヲ實行スヘキモノ

ト認ムトナシ

伊國代表ハ先ツ同國ハ六月八日一般的留保ヲ爲シ居リ從テ何等責任ヲ負ハサルモノナルカ其ノ後態度ヲ變更スヘキ事情ヲ見スト述へ平和條約上特殊ノ地位ニ立ツ國ノ參加ナクハ取極ハ實效ナカルヘク又監督ノ前提トシテ一般條約成立ノ必要アルヲ說キ

\*事項編注

一 本件會議については、同會議我が方全權團作成の會議報告書が『日本外交文書 国際連盟一般軍縮會議報告書』(全三巻)として復刻・刊行されており、歐州主要國間外交交渉の経過や一般委員会をはじめとする各委員会の討議内容の詳細などについては、同書参照。

二 本事項收録文書の冒頭に十印のあるものは、外交史料館所蔵の條約局第三課作成調書「一般軍縮會議 帝國全權宛電報」より採録した。

瑞典代表ハ議長案及米案ニ同意シ佛國代表「マシグリ」亦簡單ニ議長案ニ賛成シ同國ハ右三點ニ付協力シ來レリト述へ最後ニ議長ハ委員會ノ空氣ヲ賞讃シ今後ハ十一月五日會商ノ趣旨ニテ進ムヘク何等カノ結果ニ到達スル迄努力スヘキ旨ヲ宣シ閉會セリ  
在歐米大使ニ郵送セリ

### 三 欧州政況関係

66 昭和9年1月17日 在ボーランド伊藤公使より

広田外務大臣宛(電報)

独・ポーランド接近問題等につき在ボーラン

ド各国大使より聞込みについて

ワルシャワ 1月17日後発  
本 省 1月18日前着

第四號(極秘)

往電第三號冒頭ニ關シ

當國現下ノ對外的地位ハ相當困難ナルモノアリ外相カ約シ

タル外交報告ニ關スル演説ヲ二度モ延期シタル如キ這般ノ消息ヲ語ルモノト認メラルカ對外政局ニ關シ着任以來接觸シタル方面ノ談ヲ綜合スルニ

一、從來ノ關係ヨリ見テ世人ノ意外トスル波獨最近ノ接近ニ關シ當事者タル「ベック」外相ハ本使ニ對シ成功ノ原因トシテ「ヒットラー」執權以來獨政府カ從來ノ政府ノ遺<sup>(金)</sup>口ト異リ「プロシヤ」ノ利害ノミヲ考慮セサルニ至リタルニ依

ル方適當ナルヘシ

二、波獨接近ノ事情右ノ次第ナルヲ以テ露國ハ非<sup>(ア)</sup>接近ニ對シ

非常ナル不滿ヲ拘<sup>(捕)</sup>クニ至レル趣ニテ「ソ」公使モ此ノ事實